基本構想

平成28年度~37年度



基本構想の体系イメージ

政策】 しごと・産業・交流



政策 2 子ども・若者・女性



政策3 暮らし・安心・健康



みんなの夢 (30年後の未来像)

人が輝き 未来をひらくまち にのへ

取実み り現んな みるを

二戸市総合計画 基本構想

みんなの目標

挑戦します!次代へ紡ぐふるさとづくり

~人づくり、多彩な交流、共創で紡ぐまち~

総合計画の4本の柱

1. しごとをつくる 3. 暮らしを守る 2. 子育てを支える 4. まちをつなぐ

人口減少に立ち向かう2つの視点

1. 人口減少に歯止めをかける 2. 人口減少に対応する

政策

しごと・ 産業・ 交流

政策2

子ども・ 若者· 女性

政策3

暮らし・ 安心・ 健康

政策を支える土台・原動力

地域力

ひと・市民力(人づくり) 民間力(企業・団体・NPOなど) きょう そう 共 創 (市民参画) 行政力 インフラ整備

行政資源

みんなの目標

挑戦します! 次代へ紡ぐふるさとづくり

~人づくり・多彩な交流・共創で紡ぐまち~

私たちは、みんなの夢を、「人が輝き 未来をひらくまち にのへ」として掲げました。

この夢に向かって、何をしなければならないのか、何ができるのかを考えたとき、次の世代にこの「にのへ」を伝えるための基盤づくりを進めなければならないのではないでしょうか。

人口減少が進み、生活利便性の低下や地域コミュニティの弱体化といったことが懸念され、ともすれば、まち全体が閉塞感に包まれかねません。

しかし、TPPや産地間競争に負けずに頑張っている若く意欲的な農業後継者の皆さん、また、自らの時間を削りながらも市民文士劇に取り組んでいる皆さん、さらには、自分自身も高齢者となりながらボランティアや福祉活動に取り組まれている皆さん、このように、「にのへ」には元気で頑張っている人がたくさんいます。

先人が培った 「にのへ」 を子どもたちに伝えるためには、このような方々の活動を支援しながら、市民と行政が 意見を出し合い、時にはぶつかり合いながらも 「まちを共に創って行くこと」 が必要ではないでしょうか。

確かに30年後の社会・経済情勢がどうなっているか誰にも分りません。もしかすると「自治体」という概念もなくなっているかもしれません。それでも、まちは「人」が創り、育て、伝えられます。

人口減少を正面から捉え、先人から受け継いだ伝統や産業を活かしながら、ここに暮らす私たちが、様々な可能性を未来へ向けて紡ぎ、新たなふるさとづくりを模索しながら挑戦する、それが私たちの役割であり、この想いに共感していただき、ともに計画を進めるために、10年間の「みんなの目標」を掲げます。



次代へ紡ぐ

私たちは、先人から受け継いだこの郷土を、次の世代に引き継いでいかなければなりません。

そのためには、今ここに住んでいる私たちが力を合わせ、いつまでも誇れるまちを作っていくことが大切です。

紡ぐという言葉は、綿や繭から繊維を引き出し、より合

わせて糸にすることを意味しています。

本市にある人や「モノ」、歴史文化などの資源を、力を合わせて守り、磨くことで、より合わせてまとまる糸のように、市民が同じ気持ちで取り組むことを、次代へ紡ぐという言葉で表しています。

人づくり

人口減少が進む中、地域の活力や魅力を生み出すため には、様々な場面でリーダーとなる人の力が必要です。

人が暮らしを支え、暮らしやすさが実感できるまちを目指して、市民の皆さんが積極的にまちづくりに関わり、行政

と一緒に考え力を合わせながら、「人づくり」の好循環を創り出し、元気なまちづくりに向けた取り組みを進めます。

多彩な交流

人の交流は、新しい風を吹き込み、地域を元気にする源 になります。

地域と地域の交流を強化しながら暮らしの充実を図る とともに、周辺市町村、首都圏、全国、世界との、多様な交 流を進めることで、まちの魅力や文化など、今まで気づか なかった良さが見直され、まちに変化を与えてくれます。

地域、観光、スポーツ、歴史、芸術文化など、市の資源を 活かした多彩な交流を創出し、人と人のつながりを大切に した潤いのあるまちづくりに取り組みます。

共 創

人口や行政資源が減少する中で、暮らしやすいまちを 守り、抱える課題を解決していくためには、それぞれの垣 根を越えて知恵を出し合いながら取り組んでいくことが 必要となっています。 このことから、市民の皆さんと行政が同じ気持ちで悩み、考えながら、力を合わせて元気なまちづくりに取り組むことで、暮らしやすさを創り上げる共創のまちを目指します。

総合計画の4本の柱



本市には、中山間地域の自然の中で培われ た、国内生産量の約7割を占める浄法寺漆、 さくらんぼ「夏恋」やりんご「冬恋」などに代表 される果樹、国内有数の生産量を誇るブロイ ラーなど、全国に誇れる特産品が数多くあり

後継者や就業者の確保などの課題はあるも のの、このような、特徴ある資源を活かした産 業が地域に定着し、成長するなかで、新たなし ごとが生まれ雇用の創出に結びつきます。

地域に根付いた産業に雇用が生まれ、定住 者の増加や地域を支える人材の育成にもつな がるよう、地域産業の成長によるしごとの創 出に取り組みます。



安全で安心できる生活は、暮らしやすさの 実感にもつながります。

災害に強い地域で、心の豊かさを感じ健康 に暮らすためには、地域のなかで主体的に行 動し、自分が出来ることに積極的に取り組むこ とが大切です。

健康づくりや地域づくり、防災などの活動 に、地域の絆を生かしながら自ら取り組み、芸 術文化やスポーツによる交流を促し、それを 市民や企業、団体、行政が支援することで安心 して心豊かに暮らせるまちづくりに取り組み ます。



支える 子育てを

人口減少の大きな要因の一つは、生まれる 子どもが減少していることにあり、本市の出生 数をみると、近年は年間200人前後という状 況が続いています。

この原因として、結婚や出産、子育てへの不 安感や負担感などによる、出生率の低迷、晩婚 化、未婚率の上昇などが上げられます。

出会い、結婚、出産、子育てを、地域や職場、 あるいは、地域内外との交流や世代間での相 談など、様々な角度から支援することで、夢や 希望が持てる結婚・子育て環境づくりに取り 組みます。



まちは、住む人、働く人、訪れる人、活動する 人などそこに関わる人々を中心に、家庭や職 場、商店、施設、生活を支える基盤などが相互 に補完し合いながら構成されています。

しかし、人口減少などの影響で行政資源の 減少が見込まれることから、市民と行政、地域 と企業など人や組織とのつながりを持ちなが ら、地域課題の解決などに取り組み、元気で魅 力的なまちを創り上げていくことが大切です。

このため、「どのようなまちをつくるか」「ど のような活動をするか」といった市民の視点 を大切に、市民活動と一体となり互いに連動 しながら、次の世代につなぐまちづくりに取り 組みます。

人口減少に立ち向かう2つの視点

総合計画を策定するにあたって、一番大きな課題は人口減少です。

人口減少は、構造的な要因もあり、すぐに施策の効果が現れるものではありませんが、長期的な視点で継続的に雇用の 創出や子育て支援に取り組むことで、減少の割合を抑えることができます。

このため、この総合計画では次の2つの視点で人口減少への対応に立ち向かいます。

]

人口減少に歯止めをかける

人口減少の大きな要因として、若い世代の流出と合計特殊出生率の減少傾向が挙げられます。

また、若者の流出は地元に働きたい職場がないことが大きな要素となっています。 このことから、人口減少に歯止めをかけるため、次の取り組みを進めます。

取り組み	期待される成果
雇用の創出 所得の向上	若者・女性の定住が進んでいる
結婚・子育て支援の充実	出生数が増加している

2

人口減少に対応する

人口減少は、高齢化率の上昇に伴う死亡数の増加など、構造的な減少要因もあり、今後 も進むことが予想されます。

このことから、人口が減少するなかで、地域社会や日常生活の影響を抑え、活力を維持しながら魅力的なまちづくりを行うため、次の取り組みを進めます。

取り組み	期待される成果
すべての分野での人づくり	各分野のリーダーが 地域を盛り上げている
市民参画 市民協働	市民、地域、民間が 協力して行動している